

朝鮮の歴史(韓ドラ編) (Ver.2) '20.1.11

主な参考文献: 下記から多くを引用させていただきました
①「朝鮮の歴史」(井野誠一 監修) KKベストセラーズ発行
②「Wikipedia」 <https://ja.wikipedia.org>...



＜新羅の建国＞
新羅の建国は三国(新羅、百濟、高句麗)の中で一番早いBC57とされている。ただしこの頃の歴史は伝説か史実かが明確ではなく、もっと遅いという説もある。新羅は長年にわたり高句麗・百濟と抗争し、日本とも関係が深かった。668年までに百濟、高句麗を滅ぼし、さらに朝鮮半島支配を狙った唐軍を676年に撃退し、半島の大同江以南を統一して「統一新羅」とし、935年に高麗に代わるまで続いた。(参考文献②より)

＜伽耶とは＞
伽耶(かや)は、3世紀から6世紀中頃にかけて朝鮮半島の南部に存在していた小国家群であり、12以上の小国で構成されていた。
562年に新羅に滅ぼされるまで500年以上続いた。(参考文献②より)

＜百濟の建国＞
百濟は、韓国の古代国家の一つで、紀元前18年の建国から660年の滅亡まで約700年間31人の王が在位した。建国当初は漢江(今のソウル)の中下流に位置する小国だったが、次第に周辺の小国を併合して成長した。(参考文献③より)
建国のいきさつは明確な史実としては伝えられていないが、高句麗を建国したチュモンの息子で2代王となる瑠璃(ユリ)が王妃ソソノの実子でなかったことから後継者争いが起こり、王妃が二人の息子和臣下を連れて南下し、百濟を建国したという説もある。(参考文献①P47)

＜高句麗の建国＞
高句麗は紀元前37年の建国から668年の崩壊に至るまで705年間繁栄した国である。建国の時代は朝鮮半島は扶余をはじめ多くの小国が存在する群雄割拠の時代であった。そんな中、扶余国の出身の青年朱蒙(チュモン)が彼を慕う難民たちと共に扶余を出て高句麗を建国したとされている。チュモンは強いリーダーシップと軍事力を発揮し、小国を一つずつ併合する拡大策をとり、近隣の小国を征服して1世紀初頭には扶余を凌駕するほどの強国となった。(参考文献④より)
高句麗を建国したチュモンの出自や建国までのいきさつは、ほとんど神話の世界であり、正確な史料は残っていない。「三国史記」ではチュモンはハベク(中国の河の神)の娘ソファが生んだ金の卵から誕生し、彼女を保護した扶余のクムワ王の下で王子として育てられたと記されている。(参考文献①P47)

＜扶余とは＞
ツングース系の部族「貊人(はくじん)」が、紀元前2世紀ごろ中国東北部の松花江中流に建てた国であり、1～3世紀ごろには高句麗に対抗する勢力となった。494年に同じツングース系の部族「勿吉(モッキツ)」に滅ぼされた(参考文献②より)



韓ドラ
朱蒙(チュモン)
紀元前80年頃、朝鮮半島北部は隆盛を誇った古代国家古朝鮮は滅ぼされ、民は漢の支配下にあった。タムル軍を率いて流民を救い、漢に抵抗するヘモス將軍と扶余国の若き皇太子クムワは密かに行動を共にし流民からの信奉を集めていた。しかし扶余国王の計略によりタムル軍は壊滅、重傷を負ったヘモスをハベク族長の王女ユファが献身的に看病し、二人の間に生まれたのが後に高句麗の東明聖王となる朱蒙(チュモン)である。チュモンは扶余の王子として育てられ、幾多の出会いと試練を重ねるうちに大きく成長し、やがて扶余を旅立ってタムル軍を再組織、漢との壮絶な戦を勝ち抜き、高句麗の偉大な初代大王として歴史に名を残すまでの軌跡が描かれている。

日本の時代	西暦	
弥生時代	-60	新羅
	-50	
	-40	BC57～AD4 1代_朴赫居世 (ヒョッコセ・ゴソガン)
	-30	
	-20	
	-10	
	0	4～24 2代_南解次次雄 (ナメ・チャチャウン)
	10	
	20	24～57 3代_儒理尼師今 (ユリイ・サグム)
	30	
	40	
	50	
	57～80	
	60	4代_脱解尼師今 (タルヘ・イサグム)
	70	
	80	80～112 5代_婆娑尼師今 (バサ・イサグム)
	90	
	100	

伽那

BC18～AD2 1代_温祚王(オンジョワン)	百濟	BC19～AD18 1代_東明聖王(朱蒙 チュモン)	高句麗
		BC19～AD18 2代_瑠璃明王(類利 ユリ)	
		18～44 3代_大武神王(無恤 ムヒュル)	
		44～48 4代_閔中王	
		48～53 5代_慕本王	
		53～146 6代_国祖王	
28～77 2代_多婁王(タルワン)			
77～128 3代_己婁王(キルワン)			

扶余

107 倭国王、 後漢に遣使	110	112~134 6代_祇摩尼師今 (チマ・イサグム)			
	120				
	130	134~154 7代_逸聖泥師今 (イルソン・イサグム)			
	140				
	150	154~184 8代_阿達羅泥師今 (アダルラ・イサグム)			
	160				
	170				
	180	184~196 9代_伐休泥師今 (ボルヒュ・イサグム)			
	190				
	200	196~230 10代_奈解泥師今 (ネヘ・イサグム)			
239 卑弥呼が 魏に遣使	210				
	220				
	230	230~247 11代_助賁泥師今 (チョブン・イサグム)			
	240				
	250	247~261 12代_沾解泥師今 (チョムヘ・イサグム)			
	260	262~284 13代_味鄒泥師今 (ミチュ・イサグム)			
	270				
	280	284~298 14代_儒禮泥師今 (ユリエ・イサグム)			
	290				
	300	298~310 15代_基臨泥師今 (キリム・イサグム)			
古墳時代	310	310~356 16代_訖解泥師今 (フルヘ・イサグム)			
	320				
	330				
	340				
	350	356~402 17代_奈勿麻立干 (ネムル・イサグム)			
	360				
	370				
	380				
	390				
	400	402~417 18代_賁麻立干 (シルソン・イサグム)			
410					
		128~166 4代_蓋婁王(ケルワン)			
		166~214 5代_肖古王(チョゴワン)		146~165 7代_次大王	
		214~234 6代_仇首王(クスワン)		165~179 8代_新大王	
		234~286 8代_古爾王(コイワン)	234~234 7代_沙伴王(サバンワン)	179~197 9代_故國川王	
				197~227 10代_山上王	
				227~248 11代_東川王	
				248~270 12代_中川王	
				270~292 13代_西川王	
		286~298 9代_責稽王(チェッキェワン)		292~300 14代_烽上王	
		298~304 10代_汾西王(プンソワン)		300~331 15代_美川王	
		304~344 11代_比流王(ビリュワン)			
		344~346 12代_契王(キェワン)		331~371 16代_故國原王	
		346~375 13代_近肖古王(クンチョゴワン)			
		384~385 15代_枕流王(テムニョワン)			
		375~384 14代_近仇首王(クングスワン)		371~384 17代_小獸林王	
				384~391 18代_故國壤王	
		392~405 17代_阿華王(アシンワン)	385~392 16代_辰斯王(チンサワン)	391~413 19代_廣開土大王	
		405~420 18代_腆支王(チョンジワン)			
				413~491	

韓ドラ
風の国

建国数

建国数十年を経た高句麗は、朱蒙(チュモン)の死後、息子ユリ王の時代に団結力を失い、他国の侵略を受け王朝滅亡の危機を迎えた。そんな時代に誕生したのが、ムヒル(後の高句麗3代王の大武神王)だった。ところが「この子は将来、父母兄、わが子がを殺し、高句麗を滅ぼす不吉な子である」と神女に予言され、幼い頃に城を追われた悲しい運命に翻弄されながらも己の出自を知り、紆余曲折を経て救国の英雄となる姿が描かれている。



韓ドラ

百済の王と第2王妃の間に生まれたブヨグ(後の13代・近肖古王クンチョゴワン)は第1王妃との対立を恐れた王によって王宮から追放される。その後、遅く成長したブヨグは対立する高句麗のサム王に矢を射るという功績を上げる。

高句麗・新羅・百済が覇権を争う朝鮮半島を舞台に、新羅の三国統一により歴史の中に葬られた百済の英雄・近肖古王(クンチョゴワン)の生涯を描いた歴史ドラマ。



韓ドラ

太王四神記

4世紀末の高句麗。王家に二人の男児が誕生した。タムドクと従妹のホゲ。二人は実の兄弟のように育ったがタムドクが太子となり、次王の座が見えてくると、彼の前に王位を狙うホゲが立ちはだかる。

タムドクが数々の困難を乗り越え、天から与えられた四神の神器とその守り主を探し当て、真の王へと成長していくドラマ。

(タムドクは19代王・廣開土王(クワンゲトワン)の実の名であるが、神話を融合させたファンタジーに仕上がっている)

		417～458 19代_訥祗麻立干 (ヌルジ・マリッカン)	420～427 19代_久爾辛王(ケイシンワン)	20代_長壽王	
	420		427～455 20代_毘有王(ピュワン)		
	430				
	440				
	450		455～475 21代_蓋鹵王(ケーロワン)		
	458～479		475～477 22代_文周王(ムンジュワン)		
	460	458～479 20代_慈悲麻立干 (チャビ・マリッカン)			
	470				
	479～500		479～501 24代_東城王(トンソクワン)	477～479 23代_三斤王(サムゲンワン)	
	480	479～500 21代_炤知麻立干 (ソジ・マリッカン)			
	490				
	500	500～514 22代_智證王 (チジュン・マリッカン)	501～523 25代_武寧王(ムリョンワン)	491～519 21代_文咨明王	
	510	514～540 23代_法興王 (ポップンワン)			
	520		523～554 26代_聖王(ソンワン)	519～531 22代_安臧王	
	530			531～545 23代_安原王	
	540	540～576 24代_眞興王 (チヌンワン)		545～559 24代_陽原王	
	550		554～598 27代_威德王(ウイドクワン)	559～590 25代_平原王	
	560				
574 聖德太子生誕	570	576～579 25代_眞智王(チンジワン)			
	580	579～632 26代_眞平王(チンピョンワン)	598～599 28代_恵王(ケイオウ)	590～618 26代_嬰陽王	
	590		600～641 30代_武王(ムワン)		
	600		599～600 29代_法王(ホプワン)		
	610				
	620			618～642 27代_榮留王	
	630	632～647 27代_善德女王(ソンドクニョワン)			
	640	647～654 28代_眞德女王(チントクニョワン)	641～660 31代_義慈王(ウイジャワン)	642～668 28代_實藏王	
645 大化の改新	650	654～661 29代_武烈王(ムヨルワン)	新羅と唐の連合軍によって百済滅亡	新羅と唐の連合軍によって高句麗滅亡	
	660	661～681 30代_文武王(ムンムワン)	統一新羅		
672 壬申の乱	670			安東	
	680	681～691 31代_神文王(シンムンワン)			
	690	692～702 32代_孝昭王(ヒョソワン)			
701 国号を倭から日本に	700	702～737 33代_聖德王(ソンドクワン)			
710 平城京に遷都	710			渤海	
720 日本書紀	720				

伽那は562年に新羅によって滅ぼされた

伽那滅亡



扶余滅亡

韓ドラ
善徳女王
主人公のトンマンはチンピョン王とマヤ夫人の間に生まれた双子の妹で、のちの善徳女王。双子が誕生すると王族男子が途絶えるとの言い伝えにより存在を隠され、侍女のソファに育てられる。姉のチョンミョン王女と出会って自分が王女であるを知る。新羅の歴代王妃を輩出してきた王妃族で政治感覚と美貌を武器に王を操って宮廷を我が物にしようとするミシルと戦い、最終的に女王になるまでの実在の女王の一生を描いた壮絶な物語。



韓ドラ
「三国記 三国時代の英雄たち」
高句麗のヨンゲソムン、百済のケベク、新羅のキム・ユシンの3人の英雄の活躍を中心に三国の熾烈な戦いから新羅が三国を統一するまでをわかりやすく描いている。



韓ドラ
階伯(ケベク)・・・以下は史実
階伯(ケベク、613年 - 660年)は、百済末期の将軍である。660年に新羅・唐の連合軍が侵略してきたときに、5000人の軍を率いて戦い、黄山で5万人の新羅軍を迎え討ち、4回の戦闘を行った結果、壮烈に戦死した。興首、成忠とともに百済の三忠臣と呼ばれ、自分の命まで捨てながら滅びゆく国への忠誠を最後まで守った忠臣として知られている。



韓ドラ
「大祚榮テジョン」
朱蒙(チュモン)、淵蓋蘇文(ヨン・ゲソムン)と並ぶ高句麗の三大英雄、大祚榮(テ・ジョヨン)が渤海を建国するまでの過酷な半生を描いた大祚榮の一代記。

奈良時代	730	737～742 34代_孝成王(ヒョソンワン)	773年 安東都護府廃止
	740	742～765 35代_景德王(キョンドクワン)	
	750		
	760	765～780 36代_惠恭王(ヘゴンワン)	
	770		
759 万葉集	780	780～785 37代_宣徳王(ソンドクワン)	
	780	785～798 38代_元聖王(ウォンソンワン)	
794 平安京に遷都	790	798～800 39代_昭聖王(ソソンワン)	
	800	800～809 40代_哀莊王(エジャンワン)	
平安時代	810	809～826 41代_憲徳王(ホンドクワン)	
	820	826～836 42代_興徳王(フンドクワン)	
	830	836～838 43代_僖康王(フィガンワン)	
	840	839～857 46代_文聖王(ムンソンワン)	
	850	857～861 47代_憲安王(ホナンワン)	
	860	861～875 48代_景文王(キョンムンワン)	
	870	875～886 49代_憲康王(ホンガンワン)	
	880	886～887 50代_定康王(チョンガンワン)	
	887～897	51代_眞聖女王(チンソンニョワン)	
	890		
	897～912	52代_孝恭王(ヒョゴンワン)	
	900	900～935 1代_甄萱(キョンフオン)	
	910	913～917 53代_神徳王(シンドクワン)	
	920	924～927 55代_景哀王(キョンエワン)	
	930	927～935 56代_敬順王(キョンスンワン)	
	940	943～945 2代_惠宗(王武)	
	950	949～975 4代_光宗(王昭 ワン・ソ)	
	960	945～949 3代_定宗(王堯)	
	970	975～981 5代_景宗(王佑)	



韓ドラ
「太祖王建」
高麗を建国した王建(ワンゴン)の活躍と後三国時代を描いた大作。前半は後百濟を建国した甄萱(キョンフオン)と後高句麗を建国した弓裔(クンイエ)を中心に描かれ、後半はワンゴンが三国を統一するまでが描かれている。



韓ドラ
「光宗大王ー帝国の朝」
激動の時代、「王建(ワンゴン)」の息子として生まれ、高麗帝国の礎石を築き、「千秋太后」へとつながる歴史の要となった高麗第4代王・光宗の半生をドラマティックに描く傑作時代劇。

1086 白河上皇 の院政	980	981～997 6代_成宗(王治)
	990	
	997～1009 7代_穆宗(王訟)	
	1000	
	1010	1009～1031 8代_顯宗(王詢)
	1020	1031～1034 9代_德宗(王欽)
	1030	1034～1046 10代_靖宗(王亨)
	1040	1046～1083 11代_文宗(王徽)
	1050	
	1060	
	1070	1083～1083 12代_順宗(王勲)
	1080	1083～1094 13代_宣宗(王運)
	1090	1094～1095 14代_獻宗(王昱)
	1095～1105 15代_肅宗(王顥)	
	1100	1105～1122 16代_睿宗(王僎)
	1110	
	1120	1122～1146 17代_仁宗(王楷)
	1130	
	1140	1146～1170 18代_毅宗(王昞)
1159 平治の乱	1150	
	1160	
	1170	1170～1197 19代_明宗(王皓)
1180 源頼朝伊豆国 へ出兵	1180	

韓ドラ
「千秋太后チョンチュテフ」
契丹勢力は、宋との大戦を前に背後をなくすために高麗を滅ぼそうとした。当時高麗は、契丹族を軽視し宋と親交を結んでいた。80万の大軍を引き連れてきた契丹は降伏か、あるいは昔の高句麗の土地を与えてくれるよう要求した。これにより土地を与えようとする6代目王の成宗(ソンジョン)と決死抗戦を叫ぶ先代の王妃だった千秋太后(チョンチュテフ)は政治的葛藤に悩む。高麗への各々の理想を胸に秘めながら、政治的見解が違う成宗と妹千秋太后に波乱が待っていた。
大高麗の理想を抱き外勢の侵略に立ち向かう女傑千秋太后の理想と夢、そして波乱万丈の人生を描く大河ドラマ



金

鎌倉時代	1192 源頼朝、 征夷大將軍に	1190	1197～1204 20代_熙宗(王璋)	
		1200	1204～1211 21代_熙宗(王禩)	
		1210	1211～1213 22代_康宗(王禎)	
		1210	1213～1259 23代_高宗(王禑)	
		1220		
		1230		
		1240		
		1250		
		1260	1259～1274 24代_元宗(王禘)	
		1270	1274～1308 25代_忠烈王(王昀)	
室町時代	1274 蒙古襲来	1280		
		1290		
		1300	1308～1313 26代_忠宣王(王璋)	
		1310	1313～1339 27代_忠肅王(王燾)	
		1320		
室町時代	1338 足利尊氏、 京都開幕	1330	1339～1344 28代_忠惠王(王禎)	1344～1348 29代_忠穆王(王昕)
		1340		
		1350	1351～1374 31代_恭愍王(王禕)	1348～1351 30代_忠定王(王晁)
		1360		
		1370	1374～1388 32代_禑王(王禑)	
		1380	1388～1389 33代_昌王(王昌)	1389～1392 34代_恭讓王(王瑤)
		1390	李氏朝鮮 1392～1398 1代_太祖(李成桂 イ・ソンゲ)	1398～1400 2代_定宗(イ・バンゲア)

韓ドラ
「シンドン」
高麗後期。傾きかけた高麗を立ち直した人物、シンドン。僧侶の身分で恭愍王(コンミン王)を助け、革新的な改革を夢見たシンドンの生涯を描く。
シンドンは天性の賢さで、高麗のコンミン王を手助け、改革政治を夢見る革命家。そんな彼が求めているのは全国民が幸せに暮らせる国を作ること。一方、コンミン王はシンドンと愛する魯国姫の助けを受け、改革を断行する。、元朝の皇族の娘として生まれた魯国姫はコンミン王と運命的な恋に落ち、愛するコンミン王のために自分の国を捨て、高麗の改革のために全力を尽くす。

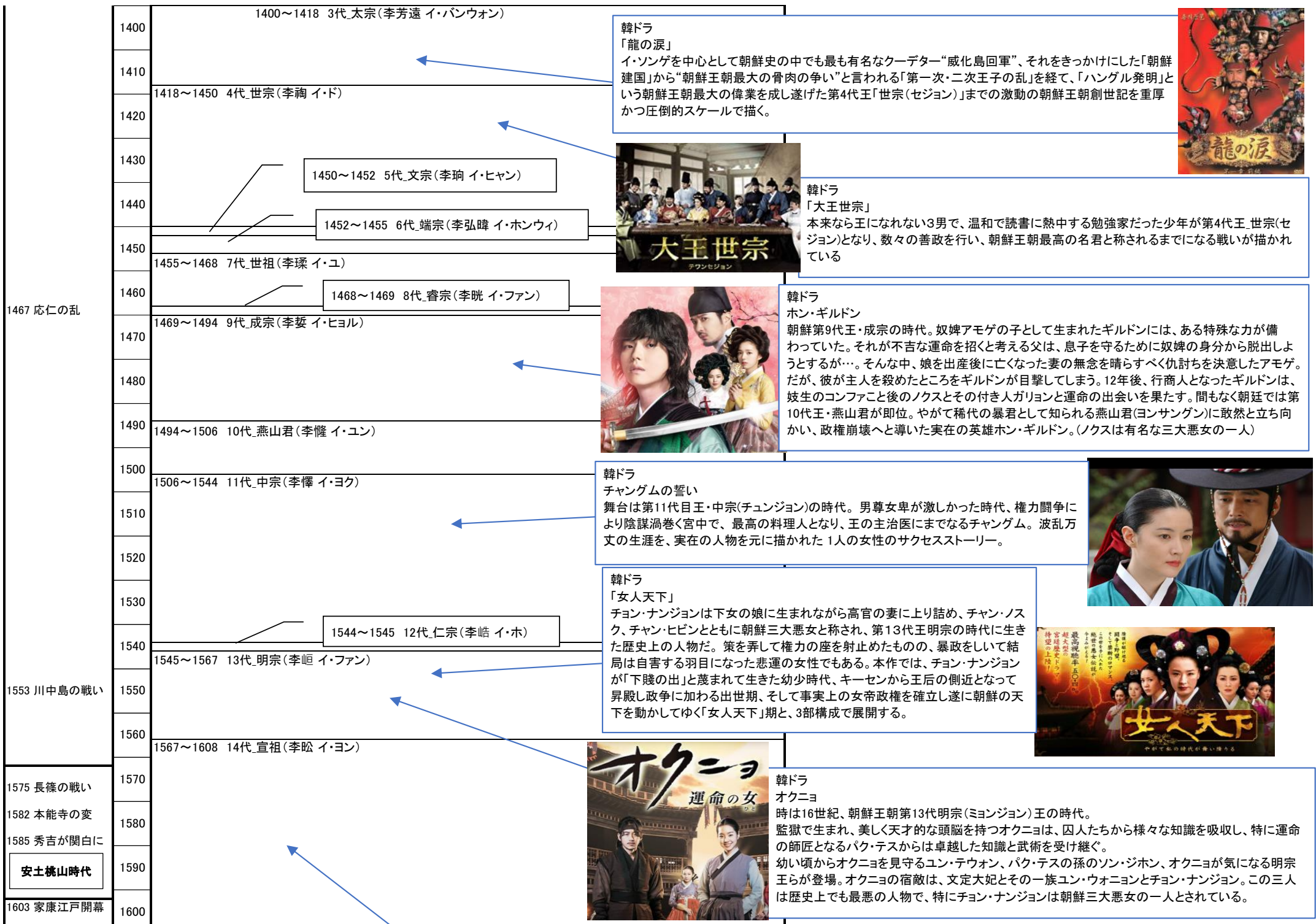


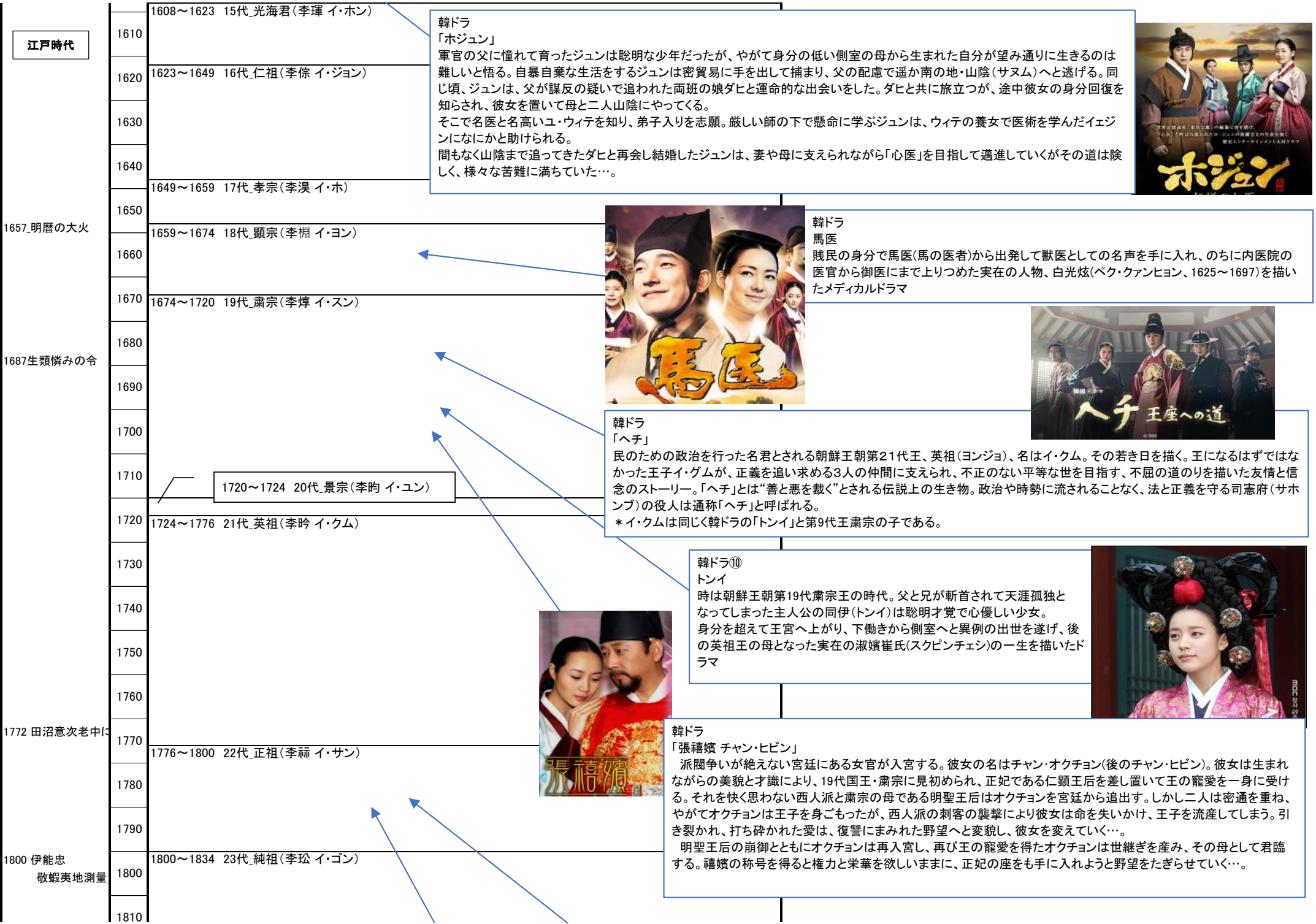
韓ドラ
六龍が飛ぶ
武将李成桂(イ・ソンゲ)がクーデターを起こし、400年以上続いた高麗王朝終わらせ、自ら初代の王につき、李氏朝鮮を建国する経緯を李成桂(イ・ソンゲ、初代王)、息子の李芳遠(イ・パンウォン、3代王)、前述の鄭道伝(チョン・ドジョン)の他、3人の架空の部下の六人を中心に描いている。



韓ドラ
鄭道伝(チョン・ドジョン)・・以下は史実
父の友である李穡を師として学問を学び1363年官吏となるが、1375年、権臣李仁任などの親元反明の政策に反対したために流刑に処される。1377年、流刑生活を終えて学問研究と教育に携り、1388年武将の李成桂(後の李氏朝鮮初代王の太祖)の幕僚となる。1389年昌王を廃して恭讓王を擁立すると功臣として封ぜられるが、1391年再び流刑に処された。1392年釈放されるが、その年4月に李成桂が遊獵中に落馬して負傷。後だてである李成桂が療養中のすきに鄭夢周が「家風が不浄で家系が不確かだ」と弾劾して、3度目の流刑に処された。李芳遠(のちの太宗)が鄭夢周を暗殺すると釈放されて、その年7月17日李成桂を王に推戴した。しかし強力な王権こそ社会の安定をもたらすと考える李芳遠と対立し始め、最終的には芳遠の軍勢に殺される。







	用語	読み	意味
い	吏曹判書	イジョパンソ	人事を司る官庁の高位の官職
	医女	ウィニョ	簡単な医術を習って内医院と惠民署で手伝いした女性
う	議政府	ウィジョンブ	官吏を統率し、政治を統括した行政の最高機関
	義禁府	ウィグムブ	王命により罪人の取り調べをする機関
	右議政	ウウィジョン	日本の右大臣に相当する重職
お	御医	オウィ	王の主治医
か	監察府	カムチャルブ	女官を取り締まる部署
き	妓生	キーセン	官庁に所属する官婢で、歌や音楽踊りなどの風流を提供した
く	軍器寺	クンギシ	武器製造、開発に関する任務を担当する
	科擧	クァゴ	官吏の登用試験
け	開京	ケギョン	高麗の首都。現在の北朝鮮の開城
こ	公主	コンジュ	王妃が産んだ王の娘
さ	司憲府	サホンブ	官吏の業務に対する監察を行い、不正の摘発・法的処置を行う司法権を持つ官庁
	尚宮	サングン	内命婦に属し女官の最高位
す	水刺間	スラッカ	王と王妃の食事を作る部署
	承恩尚宮	スンウンサン	王の寵愛を受けた宮女が封ぜられる正五品の尚宮
せ	世子	セジャ	王の後継に指名された王の子
	世孫	セソン	王の後継に指名された王の孫
	世弟	セジェ	王の後継に指名された世子の弟
そ	成均館	ンギョングァン	儒学を学ぶ最高学府
た	茶母	タモ	官庁に属してお茶を入れる仕事を請ける女
ち	左議政	チャウィジョン	議政府に属して百官を統率して一般政治および外交を担った重職。右議政より地位が上
	掌楽院	チャンアゴン	宮廷の音楽を担当する部署
て	大監	テガム	正一品から正三品までの官職にある男性の呼称
	大君	テグン	正室から生まれた王子
	大妃	テビ	先王の王妃
	大王大妃	デワンテビ	王の祖母で王室の年長者として最高の敬意が払われる
と	東宮	トングン	世子の宮殿。王の寝殿の東側に位置していたので、東宮という。
	都堂	トダン	朝鮮王朝の最高行政官庁。議政府ともいう。
	図画署	トファソ	図画に関する諸事を担当する
ね	内命婦	ネミョンブ	宮中に仕える女性の中で品階のある者
	内医院	ネウィウォン	宮殿内で調剤に関する任務を担当。典医監(チョニガム)、惠民署(ヘミンソ)とともに「三医院(サムイウォン)」という
	内需司	ネスサ	宮殿用の米穀、布、雑品、奴婢に関する事務を担当する
	内禁衛	ネグミ	王の側近で護衛を引き受けた軍隊
	内需司	ネスサ	宮中で使う米穀・麻・木綿・雑貨および奴婢、王室の財産、広大な王室の土地などの管理担った部署
	内命婦	ネミョンブ	王妃などの王族や宮女も含めた宮廷内の女性の総称
の	奴婢	ノビ	隷属することを義務付けられた人達で、家畜のように財産として取引された
は	漢城府	ハンソンブ	都(現在のソウル)内の司法・行政全般を管轄する役所
	漢陽	ハニャン	新羅時代から使われていたソウルの名称。高麗初期には楊州と呼ばれた
	漢城	ハンソン	朝鮮王朝建国後(1395年以降)のソウルの呼び名。朝鮮王朝の首都
ひ	平市署	ピョンシソ	漢城内の市場や物価の監督、度量衡などの管理を担当
	兵曹判書	ピョンジョパン	軍事を統括する官庁の大臣
ふ	活人署	ファリンソ	貧民を救済する部署
へ	惠民署	ヘミンソ	医薬の管理と庶民の治療を担当する部署
	行首	ヘンス	商団などのトップの呼称
ほ	弘文館	ホンムングァン	宮殿内の経書や史書を管理して、文書処理を行う。王の諮問に応える任務をもつ
	戸曹判書	ホジョパンソ	財務管理を担う大臣
	捕盗庁	ボドチョン	警察業務を担当する部署
も	慕華館	モファガン	朝鮮において中国の使節団を受け入れた場所
や	両班	ヤンバン	官職を得た支配階級の呼称だったが、次第にその家族や家門も両班と呼ぶようになった
ゆ	儒生	ユセン	儒教を学ぶ人
よ	領議政	ヨンウィジョン	議政府(ウィジョンブ)の最上位。庶政を総括する最高の地位

<韓国ドラマでよく出てくる地名>

地名	読み	
義州	ウィジュ	朝鮮半島の北端にあり、古来より朝鮮半島の西北の関門であった。
威化島	ウィファド	1388年、李成桂(イ・ソンゲ)は遼東征伐軍の司令官になったが、威化島で引き返して(威化島回軍)、都に攻め入ってクーデターを起こした。
江華島	カンファド	高麗王朝時代に蒙古(元)からの侵攻を防ぐため、都を開京から江華島に移した。謀反を起こした王族や官僚たちの流刑の場としても活用されていた。
金剛山	クムガンサン	朝鮮半島で最も美しいと言われる山であり、現在も人気のある観光地である。古くは金剛山四大寺院をはじめ、多くの寺院があった。
開城	ケソン	現在は北朝鮮の開城市。高麗の王都として、また商業の中心として栄えた古都である。
開京	ケギョン	(上記開城に同じ)
金城	クムソン	新羅の都だった。
水原	スウォン	李氏朝鮮22代王の正祖が遷都を計画していながら成し得なかった幻の都。
済州	チェジュ	15世紀初頭頃まで、耽羅という独立した王国があった。朝鮮時代には江華島と並ぶ流刑地の一つでもあり、主に政争で負けた王族や両班が流刑にされていた。
対馬		日本の対馬藩に属し、徳川幕府と朝鮮王朝との橋渡し役を担い、通信使や商人などが中継地。
漢陽	ハニャン	朝鮮王朝の都。現在のソウル。
漢城府	ハンソンブ	(上記漢陽に同じ)
平壤	ピョンヤン	西暦427年以降の高句麗の首都

